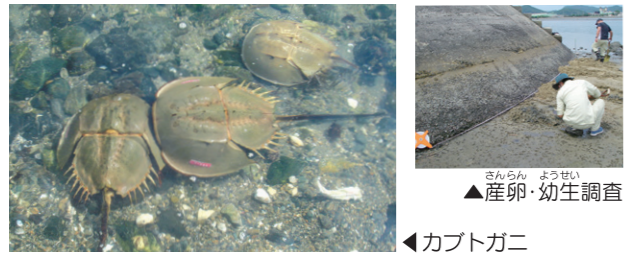


福岡市の取り組み

福岡市が行っている生物多様性を守るための取り組みを紹介します。

カブトガニの保全

今津干潟は、カブトガニの産卵が市内で唯一確認されている場所です。地域住民と一しょに保全活動を行っています。



▼干潟の清掃活動 ▼環境学習会



生きものとのふれあい

干潟での生きもの調査や自然観察会など、市民が自然や生きものとふれあい、学習できる場を提供しています。

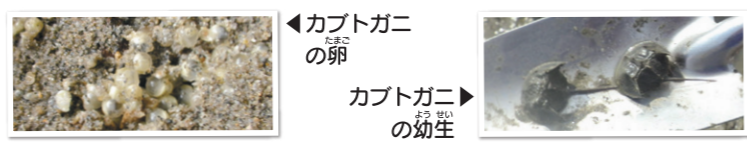


▲生きもの調査(干潟) ▲自然観察会



カブトガニとは

約2億年前から現在の姿のまま生き残っているの
で「生きている化石」とよばれています。また、絶滅の危機に直面しています。



自然の中の生きものたちを観察してみよう

QRコードで福岡チャンネル「令和4年度今津干潟のカブトガニ」や「ふくおかの生き物たち」、「福岡おかの生物多様性」を観察しよう。

わたしたちにできること 生物多様性を守るためにできること

まずは、生物多様性にふれて身近に感じることを第一歩! できることから始めてみよう!

- たべよう**
 - 地元でとれたものを食べ、旬のものを味わおう
- ふれよう**
 - 自然の中へ出かけ、自然や生きものにふれよう
- たえよう**
 - 自然のすばらしさや季節の移り変わりを感じて、家族や友達につたえよう
- まもろう**
 - 自然や生きものの観察会、保護活動などに参加しよう
- えらぼう**
 - エコラベルなどが付いた、環境にやさしい商品をえらぼう

【ねらい】わたしたちにとって大切な自然や生きものを守ろうとする意識をもてるようにします。身近なところに、守っていくべき生きものや素晴らしい場所があることを理解できるようにします。

外来種ってなあに?

外来種とは、人間の活動にともない、それまでいなかった場所に持ち込まれた生きもののことをいいます。外来種のなかには、生態系や人の生命・身体、農業などへ悪い影響を与えるものもいます。

外来種が与える悪い影響

〈生態系への影響〉

在来種(もともとその地域にいる生物)を食べる

近縁の在来種と交雑して雑種をつくる

在来種のすみかを奪ったり、えさを奪い合ったりする

外来種が国内で増えると、生物多様性やそれによってもたらされる自然の恵みも失われてしまうおそれがあります。

〈人の生命・身体への影響〉

〈農業などへの影響〉

外来種による被害を防ぐための3つの約束

- 〈入れない〉**
悪い影響を及ぼすかもしれない外来種を日本に入れない
- 〈捨てない〉**
ペットとして飼っている外来種を自然のなかに捨てたり、逃したり、放したりしない
- 〈ひろげない〉**
すでに自然のなかにいる外来種をほかの地域にひろげない

外来種のなかには、ペットとして人間に外国から連れて来られ、飼いきれなくなって捨てられたものもいます。

ペットを飼う前には次のことをよく調べて、一生を終えるその時まで責任を持って一しょにくらせるか、しっかり考えましょう。

- どのくらい大きくなるのか
- どのくらい生きるのか
- 飼うのにどれくらいお金がかかるのか
- 性格が荒くならないか など



身近な外来種であるアカミミガメについて、もっと調べてみよう

QRコードで環境省「今こそアカミミガメを語ろう! カメトーク!」を観よう。